

雑歌 : 文苑

著者	江楠生, 一露庵, 四變生
雑誌名	龍南會雜誌
巻	47
ページ	55-55
発行年	1896-06-08
その他の言語のタイトル	雑歌 : 文苑
URL	http://hdl.handle.net/2298/4945

川なみのこすかど見ればまら藤の花の谷間にかゝるなりけり
全 哲 人

山松の梢をこゆる藤なみは雲より落つる瀧かどを見る
全 章 夫

つた道のまけみにさける藤波の木の間かくれの色のゆかしさ
全 蝶々 子

里遠きみやまの奥も君か代のゆかみかゝれる松の藤なみ
評曰 着想渾厚、聲韻俱高

雑歌

春雨夜静

江楠生

ひるの間に花みま夢をむすへとやまめやかに降る夜の春雨

残花

訪ふ人の跡たえくに咲き残る花こそ春のどまりなるらめ
はなの中の花とも見よやくれてゆく春の梢に残る花をは

新樹

一 露庵

夏くれは霞の衣ぬきかへて峯の若葉の色そすしき

失題

四 變生

われこそはふりし野中のひとつ井戸忘草れふ中に埋れて